

mitoco Buddy

mitoco Buddy 2026.07.14 リリースノート

リリース日:2026 年 7 月 14 日



目次

はじめに	3
1 リリース内容	4
1.1 Auto Router の追加	4
1.2 Azure Files MCP 連携機能の追加.....	5
1.3 IBM Netezza MCP 連携機能の追加.....	6
1.4 【管理者】ナレッジでの SharePoint ファイル取り込み	7
1.5 エージェント公開承認ワークフロー機能.....	10
1.6 会話の知識をスキルに提案する機能追加.....	12
1.7 一般チャット内での動的スキル生成機能追加	13
1.8 MCP の動的設定の提案する機能追加	14
1.9 必要な時にツールをロードする機能提供.....	15
1.10 チャットの過去の会話検索	16
1.11 MCP 接続用 URL の提供	17
1.12 OAuth トークン管理	18
1.13 最新 AI モデルへの対応.....	19
1.14 ナレッジへの登録件数の上限撤廃とクレジット使用ポリシー変更	19
1.15 その他の機能改善.....	20
1.16 UI ラベリング改善	22
1.17 NotePie の機能改善	24
2 お問い合わせ先	25
3 免責事項	26

はじめに

本リリースノートでは、mitoco Buddy の主要な新機能や、既存機能の機能強化に関する概要情報を提供します。新機能および機能強化には、既存の環境に影響を与える可能性があります。より詳細な情報については、リリース時に公開予定のヘルプサイトをご参照ください。

ヘルプサイト：<https://doc.buddy.mitoco.net/ja/user-guide>

※本リリースよりヘルプサイトを変更しました。

■ 概要

2026.07.14 アップデートでは、以下の機能を強化または追加しています。詳細については、ハイパーリンクをクリックしてください。

- ・ [Auto Router の追加](#)
- ・ [Azure Files MCP 連携機能の追加](#)
- ・ [IBM Netezza MCP 連携機能の追加](#)
- ・ [【管理者】ナレッジでの SharePoint ファイル取り込み](#)
- ・ [エージェント公開承認ワークフロー機能](#)
- ・ [会話の知識をスキルに提案する機能追加](#)
- ・ [一般チャット内での動的スキル生成機能追加](#)
- ・ [MCP の動的設定の提案する機能追加](#)
- ・ [必要な時にツールをロードする機能提供](#)
- ・ [チャットの過去の会話検索](#)
- ・ [MCP 接続用 URL の提供](#)
- ・ [OAuth トークン管理](#)
- ・ [最新 AI モデルへの対応](#)
- ・ [ナレッジへの登録件数の上限撤廃とクレジット使用ポリシー変更](#)
- ・ [その他の機能改善](#)
- ・ [UI ラベリング改善](#)
- ・ [NotePie の機能改善](#)
- ・

1 リリース内容

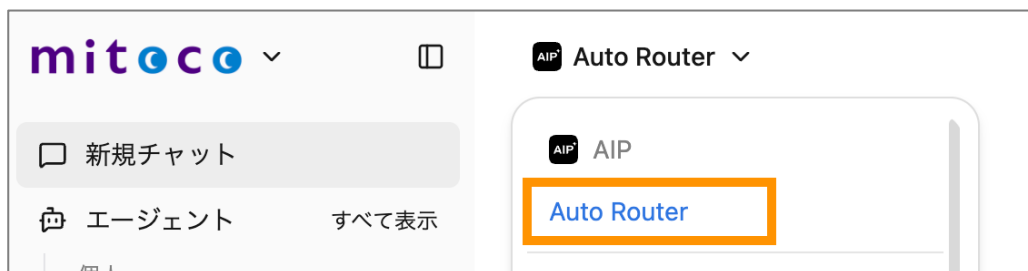
1.1 Auto Router の追加

Auto Router は、入力されたリクエスト内容の複雑さやコストを分析し、最適なモデルを自動的に選定する機能です。本機能により、ユーザーは手動でモデルを使い分ける必要がなくなり、常に用途に適したパフォーマンスで利用できるメリットがあります。

リクエストの内容に応じて、以下の 3 つのレベルから自動的に選定されます。

- **Light(簡易タスク モデル例:claude-4.5-haiku)**
1 回のやり取りで完結するような、短く独立したリクエストに適しています。
- **Balanced(標準タスク モデル例:claude-4.6-sonnet)**
ビジネスコミュニケーション用途において、ユーザーが大きく文体を修正することなく利用できるレベルを想定しています。短い会話の連続や、読み取り専用ツールの結果を解釈する用途にも使用できます。
- **Heavy(高度タスク モデル例:gpt-5.4)**
複雑なコードやデータの解析、過去の文脈を踏まえた長い会話のやり取りなど、上位の処理が必要な場合に使用されます。また、失敗時の機会損失が大きい作業や、ツールの呼び出し回数が非常に多い場合にも最適です。

なお、モデルの選定ロジックは常に改善されます。また、この選定過程において、ユーザーの実際の会話本文が参照されることは一切ありません。



🔧 重要

- 利用するには管理者設定の LLM モデルから有効が必要となります。

1.2 Azure Files MCP 連携機能の追加

Azure Files MCP 連携機能が追加されました。

■ 何ができるようになるのか

- ・ 「Azure Files」へのチャットからの直接アクセス
一般チャットや各エージェント(個人・組織)、オートメーションから、社内のファイル共有サービスである「Azure Files」へ直接アクセスできるようになります。
- ・ エージェントへの多様なファイル操作指示
エージェントに対して、以下の操作を指示できます。
 - ・ ファイルやフォルダの一覧確認、および検索
 - ・ ファイル内のテキストの読み取り
 - ・ ファイルのダウンロード

■ メリット

- ・ 社内データを探す手間を大幅に削減
Azure Files には、クラウド上の社内ファイルサーバーとして多くの業務データが蓄積されます。本機能を活用すると、エージェントがユーザーに代わってファイル共有内のデータを直接検索・参照するため、目的の情報を探す手間を大幅に削減できます。
- ・ 閲覧権限に基づいた安全なデータ活用
ユーザーごとのアクセス権限に基づいた安全なセキュリティ管理のもとで連携されます。自身に閲覧権限のない機密ファイルが読み取られる心配はなく、安全かつ迅速に社内データを業務に活用できます。

1.3 IBM Netezza MCP 連携機能の追加

IBM Netezza MCP 連携機能が追加されました。

■ 何ができるようになるのか

- ・ 「IBM Netezza」への各種チャット・自動化連携
一般チャット、個人エージェント、組織エージェント、およびオートメーションにおいて、IBM Netezza への接続を設定し、呼び出すことが可能になります。
- ・ チャット画面からの直接的なデータ操作
チャットや自動化の仕組みを通じて、データベース内の情報確認や SQL の実行などの操作が直接できるようになります。

■ メリット

- ・ 大規模データへのシームレスなアクセス
大量のデータを高速に分析・処理できる IBM Netezza の特徴を活かし、社内の大規模なデータベースへ普段のチャット画面からシームレスにアクセスできるようになります。
- ・ 専用ツール不要のデータ抽出と業務自動化
専用ツールに切り替えることなく、膨大なデータをもとにした素早い情報抽出や、データ連携を組み込んだ業務の自動化が手軽に実現できます。

The screenshot shows the 'MCP' configuration page for 'IBM Netezza'. On the left, there is a sidebar with the IBM Netezza logo, the text 'IBM Netezza Performance Serverに接続', a 'Built-in' badge, and sections for 'Authentication' (UID/PWD) and 'Category' (Database Connections). The main area is titled '接続情報' (Connection Information) and contains several input fields: '名前' (Name) with the value 'IBM Netezza', '説明' (Description) with the value 'IBM Netezza Performance Serverに接続', 'Host' (empty), 'Port' (set to 5480), 'Database Name' (set to SYSTEM), 'Username' (set to testuser), and 'Password' (masked with dots). There are also small red asterisks next to the Name, Description, Host, Username, and Password fields, indicating they are required.

1.4 【管理者】ナレッジでの SharePoint ファイル取り込み

ナレッジバンドル(エージェントにファイルの内容を読み込ませて知識として使用する RAG 機能)に SharePoint からファイルを取り込む機能が追加されました。

■ 何ができるようになるのか

- ・ **「SharePoint」からのファイル自動取り込み**
ナレッジバンドル(エージェントに読み込ませる知識のまとめり)が「SharePoint」に対応し、社内共有ファイルを直接取り込めるようになります。
- ・ **ファイル内容に基づくエージェントの回答・処理**
エージェントにこのナレッジバンドルを追加することで、SharePoint 内にあるファイルの内容をもとに、エージェントが質問への回答や処理を行えるようになります。

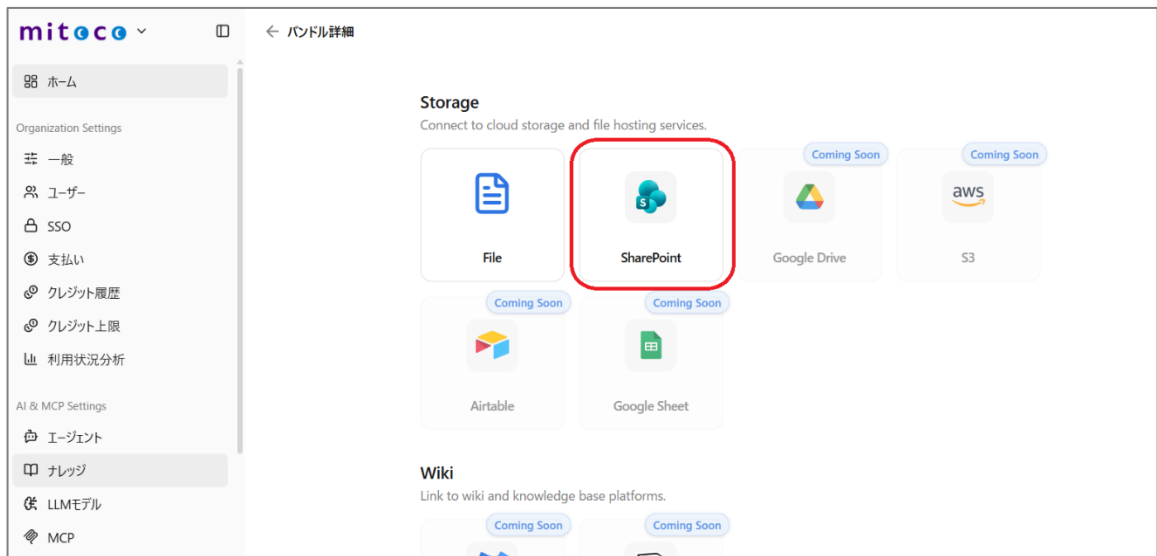
■ メリット

- ・ **手動による再アップロードの手間を解消**
SharePoint 上で管理している社内文書やマニュアルを、わざわざ手動でダウンロードしてナレッジへ再アップロードする手間が省けます。
- ・ **元ファイルの更新を自動検知して最新情報を同期**
SharePoint 側の元ファイルが更新された場合もシステムが自動で検知するため、簡単な操作で最新の情報をエージェントに同期できます。
これにより、常に最新の社内データに基づいた正確な回答を得ることができます。
SharePoint 側の元ファイルが更新された場合でも、自動で最新の情報がエージェントに同期されるため、常に最新の社内データに基づいた正確な回答を得ることができます。

■ ご利用の手順

以下の設定は、システム管理者の方が対象です。一般ユーザーの方は、管理者の設定完了後、エージェントへの質問機能などをすぐにご利用いただけます。

1 ナレッジバンドルを新しく作成する際に、ソースとして「SharePoint」を選択します。

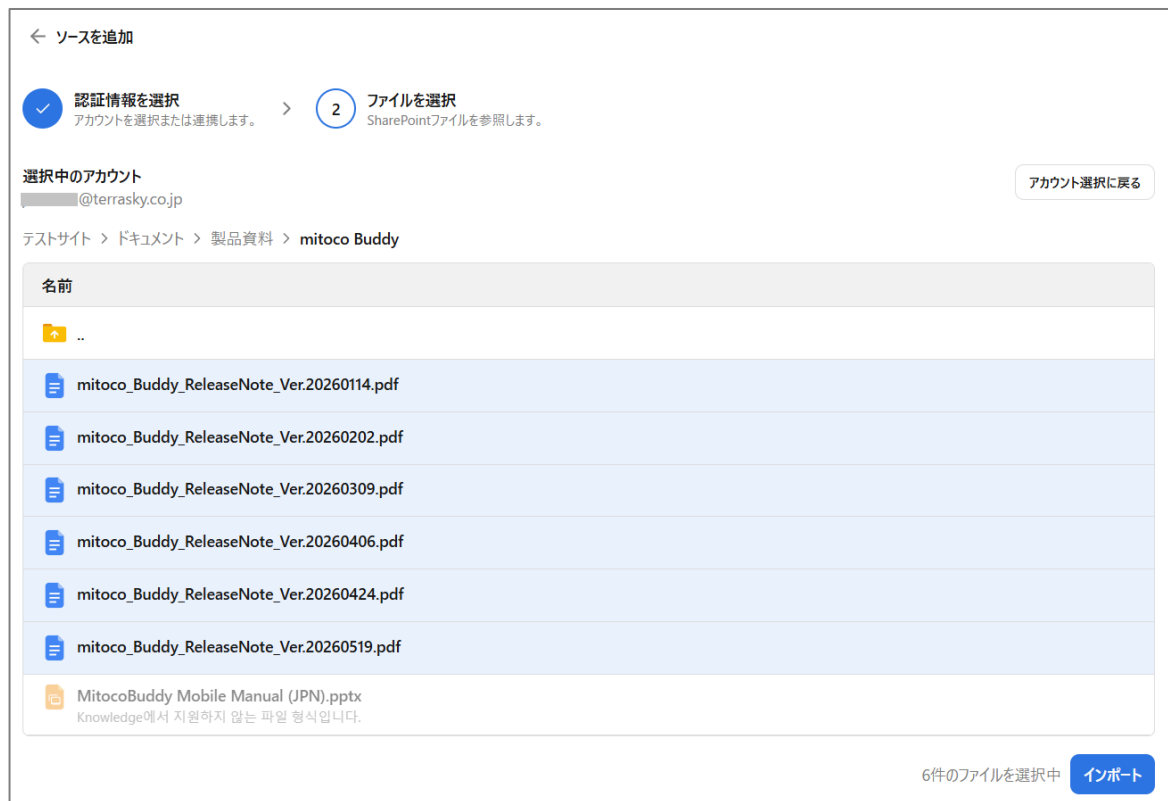


2 画面の指示に従い、SharePoint へのアカウント連携を行います。



3 SharePoint サイト内のドキュメントライブラリから、ナレッジバンドルに追加したいファイルを選択しインポートします。

(対応ファイル形式: .pdf、.docx、.doc、.txt、.md、.html、.csv、.xlsx、.json)



4 ファイルが追加されたらインデックスの作成を行います。

インデックスが完了するとファイルの内容を組織エージェントで利用できるようになります。

1.5 エージェント公開承認ワークフロー機能

組織内で作成されたエージェントを全体に共有する際、管理者やオーナーによる事前承認を必須とするワークフロー機能です。

従来は担当者の操作のみで公開が可能でしたが、本機能の導入により、公開前に第三者による内容の確認プロセスを挟むことができるようになります。

■ 何ができるようになるのか

- ・ 意図しない公開の防止

作成途中のエージェントや、機密情報を含むエージェントが誤って組織全体に公開されるリスクを防ぎます。

- ・ エージェントの品質向上と統制

管理者やオーナーが事前に設定内容やプロンプトの妥当性をチェックできるため、組織内で共有されるエージェントの品質を一定に保つことができます。

- ・ セキュリティとガバナンスの強化

「誰が・いつ・どのエージェントの公開を申請し、誰が承認したか」という履歴が残るため、組織内における AI 運用の安全性が向上します。

The screenshot shows a modal dialog box titled "← エージェント公開承認のリクエスト" (Request for Agent Public Approval). It contains the following elements:

- A close button (X) in the top right corner.
- Instructional text: "管理者のレビュー後、組織メンバーが使用できるようになります。" (After review by the administrator, organization members will be able to use it).
- A section titled "共有 範囲" (Sharing Scope) with a blue-bordered box containing:
 - A user icon and the text "すべてのユーザー" (All users).
 - A description: "組織のすべてのユーザーがこのエージェントにアクセスできます。" (All users in the organization can access this agent).
- A section titled "リクエスト理由" (Request Reason) with a blue-bordered text area containing:
 - The text: "営業報告のエージェントを作成しました。日々の報告をエージェントが行います。" (Created an agent for business reports. The agent will perform daily reports).
- At the bottom, there are two buttons: a light gray "戻る" (Back) button and a blue "承認をリクエスト" (Request Approval) button.

1 リリース内容

レビュー履歴



承認リクエスト

2026/7/8 16:31:09

@terrasky.com

営業報告のエージェントを作成しました。日々の報告をエージェントが行います。



公開を承認

2026/7/8 16:34:43

@terrasky.co.jp

設定とテスト結果を確認しました。

1.6 会話の知識をスキルに提案する機能追加

ユーザーが一般チャット内で行った一連の繰り返し業務や複雑なやり取りを AI が検知し、効率化のための「スキル」として提案します。

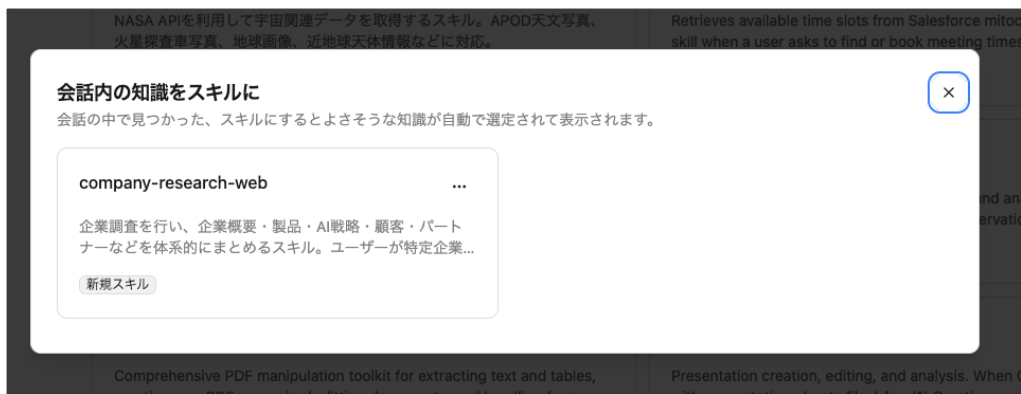
■ 何ができるようになるのか

- ・ 定型業務のショートカット化

同じ質問や指示を何度もチャットに入力する手間を省き、ワンクリックで複雑な業務を実行できるようになります。

- ・ 業務のナレッジ共有

チャット内で行われた有益な AI とのやり取りを簡単にスキル化できるため、組織内でのスムーズな業務自動化を推進できます。



1.7 一般チャット内での動的スキル生成機能追加

ファイルをアップロードする手間を省き、一般チャット上での対話を通じて、必要なスキルをその場で自動生成する機能です。

■ 何ができるようになるのか

・作業効率の最大化

チャット画面から離れずにシームレスに新しいスキルを準備し、そのまま実行に移ることができます。

・自然言語による直感的なスキル作成

難しい設定やコードの知識がなくても、AI に対して「～を行うスキルを作って」とチャットに入力するだけで、希望するスキルが自動で構築されます。



1.8 MCP の動的設定の提案する機能追加

外部システムや各種データソースと連携するための拡張機能(以下、MCP: Model Context Protocol)を、一般チャットの会話内容に応じて AI が自動で検索し、その場でインストールを提案する機能を追加しました。

■ メリット

・ 事前設定の手間を解消

あらかじめ管理画面から複雑な連携設定を登録していなくても、会話の文脈に合わせて必要な連携ツールをシステムが自動で用意します。

・ チャットを中断しない外部ツール利用

ユーザーが利用したい機能をチャット上でリクエストするだけで、画面を切り替えることなく、必要なツールをすばやく利用できます。



1.9 必要な時にツールをロードする機能提供

MCP ツールへのアクセスが便利になりました。

■ 何ができるようになるのか

・ユーザーの指示に連動したツールのリアルタイム自動選定

ユーザーからのリクエスト(指示)をシステムが分析し、その処理に必要な機能(ツール)だけをリアルタイムで自動的に読み込んで実行するようになります。

・不要な機能呼び出しの排除による処理の効率化

指示に関係のない不要な機能の呼び出しをなくすことで、システムリソースの無駄遣いを防ぎ、より無駄のない効率的な処理が可能になります。

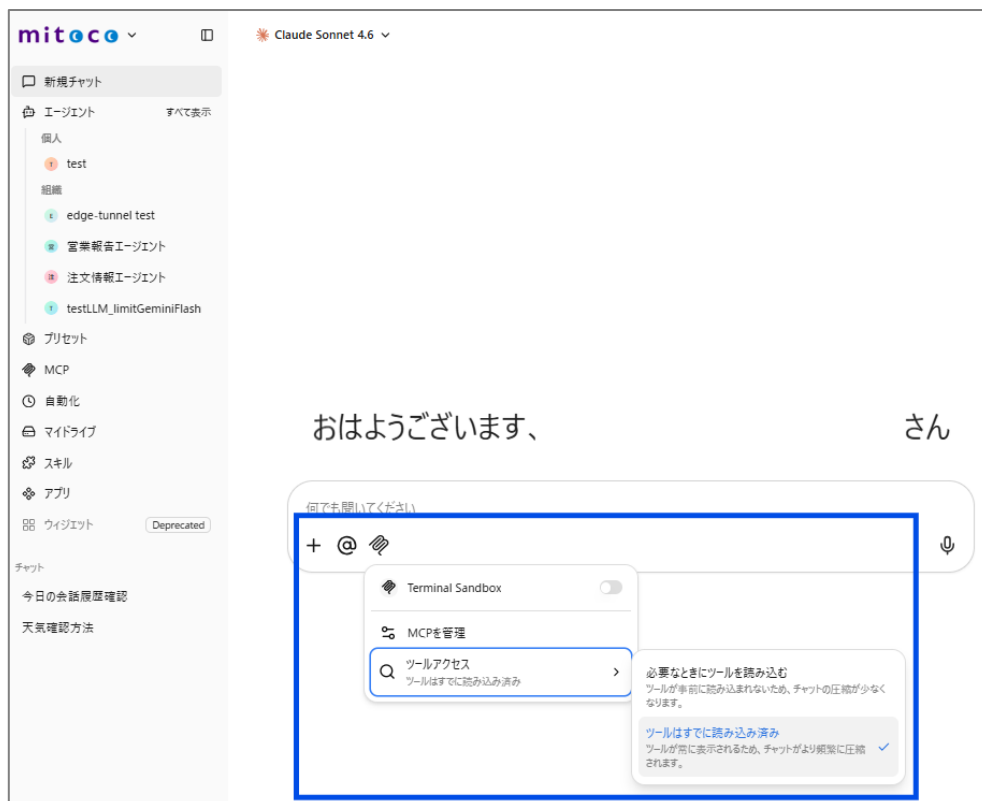
■ メリット

・AI の応答スピードと処理制度の向上

リクエストに応じて必要な機能だけをその都度読み込むため、AI の応答スピードと処理の精度が向上します。

・長時間の会話におけるシステム負荷の軽減と安定

また、長時間の会話でもシステムに余計な負荷がかからないため、常に動作が遅くなることなく、安定したサービスを快適に利用できます。



1.10 チャットの過去の会話検索

チャットで過去の会話を検索できます。

■ 何ができるようになるのか

・自然な文章による過去の会話履歴検索と要約

「今週はどんな会話をした？」といった曖昧な文章で検索でき、AI が直近 3 か月(約 93 日間)の履歴から関連する会話を見つけ出して内容を要約します。

・前回のやり取りを引き継いだチャットの再開

「今週はどんな会話をした？」といった曖昧な文章で検索でき、AI が直近 3 か月(約 93 日間)の履歴から関連する会話を見つけ出して内容を要約します。

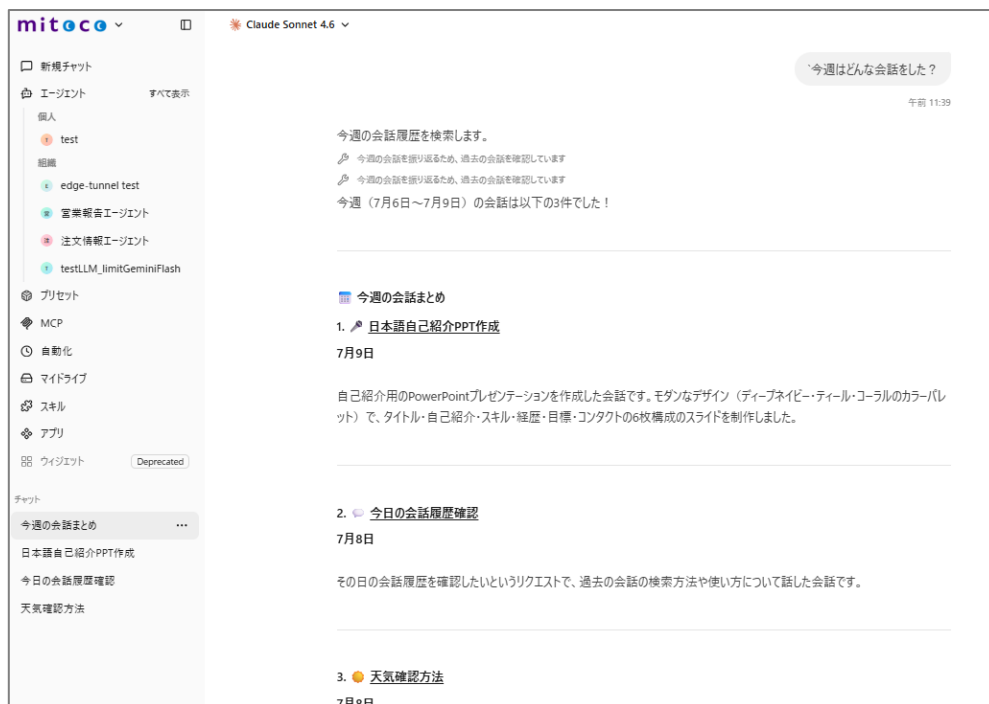
■ メリット

・大量の履歴からスクロールして探す手間を解消

膨大なチャットログを過去に遡って手動でスクロール検索する必要がなくなり、AI の瞬時的なリストアップと要約によって情報到達までの時間を大幅に削減できます。

・過去の経緯を瞬時に把握しスムーズに業務を再開

「前回どこまで話したか」の記憶を呼び起こす必要がなく、AI の要約と引き継ぎ機能によって、前回の続きから迷わず最短ルートで次の業務へ移行できます。



1.11 MCP 接続用 URL の提供

必要な連携の詳細画面から接続情報をそのままコピーできます。

■ 何ができるようになるのか

・連携サービス(MCP)ごとの専用接続 URL 発行

外部サービスや社内システムと連携するための各種 MCP(Model Context Protocol)ごとに、システムから専用の接続用 URL が自動的に発行されます。

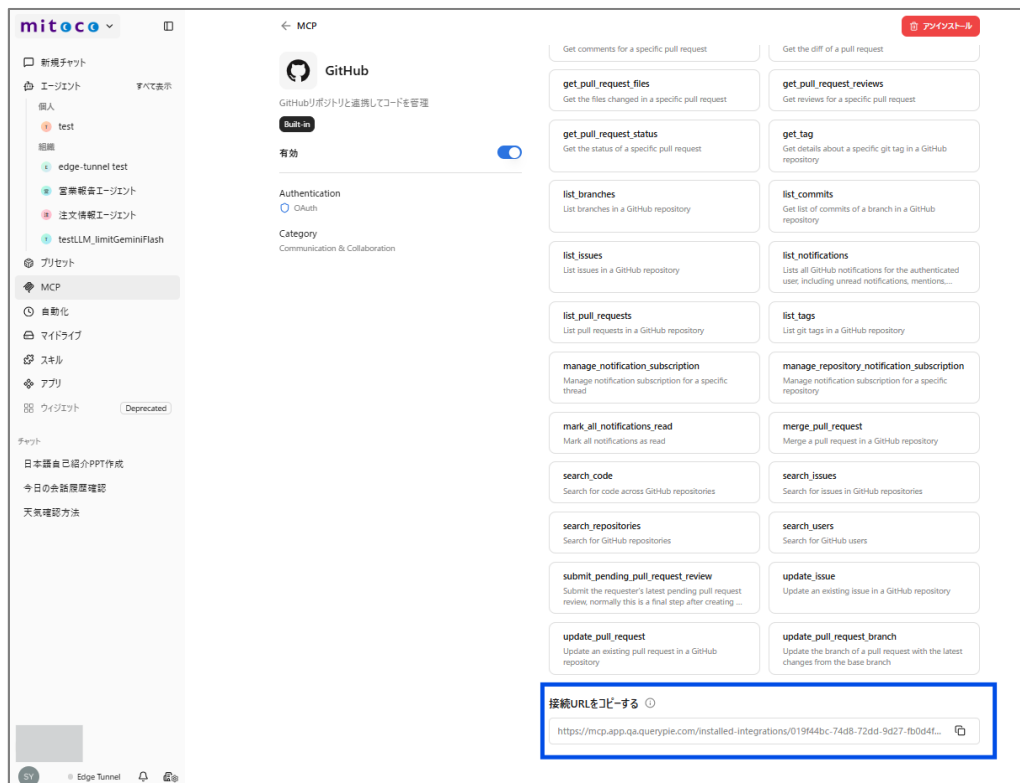
・画面の切り替えを伴わないスムーズな URL 表示

左メニューの「MCP」から連携したいサービス(例: NotePie)を選択するだけで、同じ画面の下部にある[Copy connection URL]エリアに専用 URL が即座に表示されます。

■ メリット

・システム連携の設定がスムーズに完了

複雑な接続設定やアドレスの手入力をする必要がありません。画面上に用意された[接続 URL をコピーする]から URL をコピーして外部システム側に貼り付けるだけで、安全かつ確実に連携を確立できます。



1.12 OAuth トークン管理

外部アプリケーションと連携する認証情報(OAuth トークン)をユーザー自身で安全に管理・最適化できるようにします。これにより、不要なアクセス権を排し、セキュリティを強固に保つことができます。

■ 何ができるようになるのか

・連携状態の確認

画面右上の[個人プロフィール]>[設定]>[トークン管理]を開きます。現在連携しているアプリケーションの一覧と、認証状態をいつでも確認できます。

・不要な連携の解除

使用していない、または不要になったアプリケーションとの連携は、画面上から安全に解除(トークンの削除)できます。



1.13 最新 AI モデルへの対応

より高度な思考と自然な対話を実現するため、最新の AI モデルに対応しました。
用途に応じてモデルを切り替えてご利用いただけます。

新対応モデル:

- ・ Claude Sonnet 5
- ・ GPT-5.6 SOL
- ・ GPT-5.6 Terra
- ・ GPT-5.6 Luna



重要

- モデルを利用するには管理者設定の LLM モデルから有効が必要となります。

1.14 ナレッジへの登録件数の上限撤廃とクレジット使用ポリシー変更

ナレッジへの登録可能なドキュメント数は 10 に制限されていましたがその上限を撤廃し、より多くのドキュメントをエージェントで扱えるように機能向上しました。

上限撤廃に伴い、ナレッジ機能におけるクレジット使用ポリシーを改定することとなりました。

詳細につきましては、以下をご確認ください。

- ・ 使用タイミング: ナレッジバンドルへのドキュメント登録時にクレジットを使用します。
- ・ 使用量: クレジット使用量は、ファイルの「サイズ」と「拡張子」に基づき計算されます。
内部データ表現に基づき、ファイル形式に合わせて以下の補正倍率が適用されます。
 - ・ テキスト(TXT, CSV, MD, HTML): 1.0 倍
 - ・ 文書(PDF): 0.25 倍 / (DOCX): 0.5 倍
 - ・ 表計算(XLS, XLSX): 2.0 倍

1.15 その他の機能改善

■ アーティファクト生成品質の一貫性改善

独自の生成 AI モデルを活用し、誰がリクエストしても常に一定で高品質な成果物を安定して生成できるよう改善しました。これによりドキュメント作成のばらつきを無くし、組織全体で以下の効果を発揮します。

- ・ プロフェッショナルなデザインの維持

読みやすさを最優先し、過度なダークテーマや重いグラデーションなどの不要なデザインの適用を抑制します。

- ・ 完全なドキュメントの提供

「作成中」といった未完全な文言の混入や、表示が崩れたまま成果物が出力されるのを防ぎ、完成された状態のドキュメントを提供します。



■ **チャット不可状態の際のプロフィールポップアップにおけるクレジット上限を表示しないように改善**
ライセンス期限切れまたはクレジット不足により利用できない状態でもクレジット上限を表示していましたが、表示しないよう改善しました。

■ **Recursion 制限による回答失敗時にクレジットを差し引かないように改善**

Recursion 制限により回答が失敗した場合、クレジットを差し引かないようにします。

なお、システムの仕様上、履歴(ログ)には一度クレジットが差し引かれた後、再度「返金」としてチャージされる一連のプロセスが記録されます。

1.16 UI ラベリング改善

UI ラベリングを自然な日本語表現になるように変更しました。

自動化のトリガー名前変更

「ウェブフックトリガー」 → 「Webhookトリガー」

The screenshot shows the '自動化' (Automation) configuration page in the mitoco interface. The left sidebar contains navigation options like '新規チャット', 'エージェント', 'プリセット', 'MCP', '自動化', 'マイドライブ', 'スキル', 'アプリ', and 'ウィジェット'. The main area is titled '自動化' and contains the following sections:

- 自動化名 ***: A text input field with the placeholder '自動化名を入力してください。'
- 選択されたエージェント ***: A dropdown menu with the option 'エージェントを選択'.
- プロンプト ***: A text area with the placeholder 'エージェントに送信するプロンプトを入力してください。'
- トリガータイプ ***: A dropdown menu with options:
 - スケジュールトリガー (指定した時刻または範囲で自動化を実行します。)
 - スケジュールトリガー (指定した時刻または範囲で自動化を実行します。)
 - メールトリガー (メール受信時に自動化を実行します。)
 - Webhookトリガー (Webhook API呼び出しで自動化を実行します。)** (This option is highlighted with a blue border)
 - フォルダー監視トリガー (フォルダー内のファイル変更時に自動化を実行します。)
- 一回実行**: A section for one-time execution with fields for '実行日' (Jul 9, 2026) and '実行時間' (12:45).

At the bottom right, there are buttons for 'キャンセル' (Cancel) and '作成' (Create).

「知識/知識バンドル」 → 「ナレッジ/ナレッジバンドル」

The screenshot shows the 'ナレッジバンドル' (Knowledge Bundle) management page in the mitoco interface. The page includes a search bar and a table of bundles. The left sidebar contains navigation options like 'ホーム', 'Organization Settings', '一般', 'ユーザー', 'SSO', '支払い', 'クレジット履歴', 'クレジット上限', '利用状況分析', 'AI & MCP Settings', 'エージェント', 'ナレッジ', 'LLMモデル', 'MCP', 'スキル', 'Security Settings', 'セキュリティ', 'サンドボックス', 'Edge Tunnel', 'DLP ログ', and '監査ログ'.

名前	ソース	ステータス	作成者	作成日時
社員情報	1	INDEXED	jito9408@terrasky.co.jp	2026/07/08 17:49:15
規程集sharepoint	15	UPLOADED	jito9408@terrasky.co.jp	2026/07/08 17:25:57
mitoco Buddyリリースノート	7	INDEXED	jito9408@terrasky.co.jp	2026/07/08 15:37:42
規程集	10	INDEXED	jito9408@terrasky.co.jp	2026/07/08 15:31:50

1 リリース内容

- ・ マイエージェントを「個人エージェント」に統一



1.17 NotePie の機能改善

NotePie において、以下の機能改善を行いました。

■ 機能改善

● Box との連携

Box に格納されているドキュメント資産を、NotePie 上でそのまま直接活用できるようになります。Google Drive と同様に、以下の操作が可能です。

・ソースへの追加:

Box からドキュメントファイルを取り込み、NotePie のソースとして簡単に追加できます。

・コンテンツのエクスポート:

NotePie で作成したコンテンツを、直接 Box へ出力して共有できます。

● スライド用カスタムテーマ作成機能

自社のブランドデザインに統一されたスライド資料を、誰でも瞬時に作成できるようになります。

標準テーマをベースに、以下の項目を自由にカスタマイズして自社専用に設定できます。

・配色の指定:

背景色やフォントの色、全体のトーン

・共通エリアの設定:

スライドのヘッダーやフッター領域に挿入するテキスト、企業ロゴなど

① 補足

- こちらのリリースは 2026/07/15 になります。

2 お問い合わせ先

ご不明点などがございましたら、以下よりお問い合わせください。

<https://d.terrasky.jp/ProductSupport>

3 免責事項

本リリースノートは 2026 年 7 月 14 日現在のものです。Salesforce および本製品は、定期的にアップデートされるため、記載内容と現在の動作が異なる場合は、現況を優先させていただきます。

mitoco Buddy 利用規約については、[こちら](#)をご覧ください。

本リリースノートの内容は、将来予告なしに変更されることがあります。

本リリースノートの内容につきましては万全を期しておりますが、万一不明な点や誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたら弊社までご連絡ください。



製品サポート

製品情報

<https://www.mitoco.net/mitocoBuddy>

製品ユーザーガイド

<https://doc.buddy.mitoco.net/ja/user-guide>

お問い合わせ窓口

<https://d.terrasky.jp/ProductSupport>

mitoco Buddy 2026.07.14 リリースノート

リリース日： 2026 年 7 月 14 日